



しろうさぎ

S H I R O U S A G I



TAKE FREE
ご自由にお持ち帰りください



Contents

特集 Special Issue

『2018 新年のパーспекティブ ~未来への展望~』

- 📎 病院長 年頭のご挨拶
- 📎 インタビュー

- 先端がん治療センター……………センター長 鈴宮 淳司 教授
- 総合ハートセンター……………センター長 田邊 一明 教授



- * プロジェクトM
- * 在宅医療を支えます ~私たち退院支援員です~
- * 私のここだけの話
- * 留学生の国自慢
- * イベントなどのお知らせ
- * ニュース&トピックス



病院再開発を完了し、
2018年新たなスタートへ



病院長 いがわ みきお 井川 幹夫



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

今年の抱負をお話するにあたり、来し方を振り返りますと、2011年の新病棟建設から始まりました病院再開発は、既設病棟および外来の改修も終え、昨年2017年7月の高度外傷センターの増設をもって完了となりました。

この間ご不便をおかけしましたが、今後は改善した医療設備や医療機器をフルに活用し、世界水準の医療を皆様にご提供できるものと考えております。

リニューアルにより、救急医療および急性期医療の充実、がん医療の推進、教育・研修環境の向上、快適な療養環境の提供が可能になり、それらと軌を一にするように、先進医療の認定数も増えました。

また、「アレルギーセンター」、「先端がん治療センター」、「総合ハートセンター」、「高度外傷センター」、「周産期母子医療センター」、「難病総合治療センター」などのセンターを設置しました。各診療科の垣根を越え、医師および医療スタッフの専門知識・能力・技術力を結集して、レベルの高い治療を展開してまいります。

さて、2018年は当院にとりまして新たなスタートの年でもあります。今後の当院のあり方、方向性については、「公的医療機関等2025プラン」に盛り込んでいます。

これから、超少子高齢社会が進展し、医療・介護サービスに対するニーズが変化していくことでしょう。その中で、当院は、大学病院・特定機能病院としての役割を一層明確化するとともに、各診療科が協力して高次医療を担うセンターとしても機能し、島根全域を対象とした高度急性期、急性期医療を担い、診療における司令塔としての役割を果たします。

これからも当院が地域に親しまれ、皆様の「心のよりどころ」となれますよう、職員一同、一層の努力を重ねてまいりますので、本年も温かなご支援をお願いいたします。

島根大学医学部附属病院長 井川 幹夫



がん患者さんに適切な治療と 支援を提供します

先端がん治療センター
センター長 すずみや じゅんじ 鈴宮 淳司 教授



島大では、がん患者さんの治療を行うセンターとして「腫瘍センター」を設置していましたが、平成29年8月、その機能を拡大し、さらに各診療科と協力しながら、がん医療の司令塔の役割を果たすセンターとして「先端がん治療センター」が開設されました。

「血液内科部門」では、白血病患者さんたちに骨髄移植の治療を主に行っていますが、さらに患者さんごとに最適な抗がん薬を選択できる「**プレジジョン・メディシン（最適治療）**」を行っています。この治療の考え方は、肺がんをはじめとしたがん全体にたいする新しいがん治療のやり方として、世界的な広がりをしめして、マスコミでも大きくとりあげられていますので、ご存知の方は多いかと思えます。

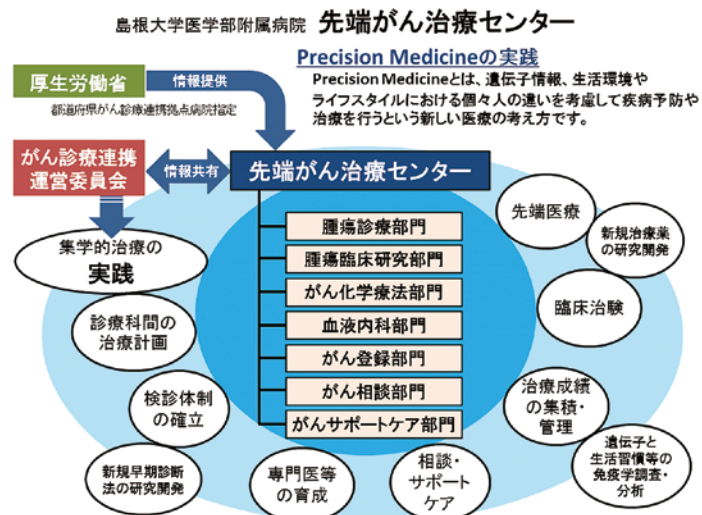
「**プレジジョン・メディシン**」は、それぞれの患者さんの遺伝子の解析を行い、それに基づいて最適な薬剤を選択する治療法です。この治療では、投薬する前に、より効果の高い、副作用が少ない薬剤を選ぶことが可能になります。

「がん化学療法部門」では、外来化学療法室や抗がん薬を受ける患者さんの病棟も整え、臨床研究（治験）も行っています。血液がん以外の組織にできる固形がん、小児がんや希少がんなどに対しても、放射線治療科・緩和ケア・薬剤部・小児科・産科婦人科などの診療科が協力し、県全体の医療を支えています。

「先端がん治療センター」の役割は、直接的な患者さんの治療ではありません。島根県のがん患者さんの特徴を集計し、国立がん研究センターや国の施策に役立てるような統計センターとしての仕事もしています。

「がん相談部門」では、「がん相談支援センター」のスタッフが、がん患者さんの相談に応じています。がん治療が進歩したため、がんを持ちながら、またはがんが治った後に仕事をされる方が増えています。がん患者さんが仕事をしながら治療ができるよう、ハローワークの協力も得て就労相談ができるような取り組みも始めています。

「先端がん治療センター」は、がんの先端的治療を行い、国や県のがん対策に役立つような活動も行っています。また、がん患者さんの生活の問題解決への手助け、そして就労なども支援しています。さらに今後もこの役割は充実させていきたいと思えます。



TAVIはからだにやさしい 最新の心臓手術です。

(※TAVI：経カテーテル大動脈弁留置術)

総合ハートセンター
センター長 **田邊 一明** 教授



「動くと胸がせつ（苦しい）」といわれる高齢者の方で、診察時、心臓に収縮期雑音がある方は「大動脈弁狭窄症」かもしれません。

「大動脈弁狭窄症」は、高齢者に多い心臓病の一つで、心臓弁が加齢によって硬く狭くなった状態になり、心臓のポンプ機能が弱まり、体に正常に血液を送れなくなる病気です。

今まで、この病気の根本治療としては「人工弁置換術」を行っていました。この手術は心臓を止め、胸を大きく開けて行うため、高齢者にとっては体への負担が大きいという理由から、経過観察で未治療の方が多いのが実状でした。

そこで、当院では、新しい手術方法「TAVI」を導入します。TAVIの最大の利点は、患者さんの体への負担が少ないということです。足の付け根の大腿動脈から、または心尖部（心臓の先端部分）から入れたカテーテルで人工弁を心臓の大動脈弁の位置に植え込みます。手術のために心臓を止めることなく、胸を大きく切開することもありますので、早期の回復が期待できます。日本でも安全に行え、その効果が高いことが実証されています。

当院では、TAVIを総合ハートセンターで実施します。TAVIのような高度な手術は、整った設備と、高度な技術を持った複数の診療科の医師・看護師・技師のチーム体制がなければ行えません。設備に関しては、ハイブリッド手術室を使用し、医師と医療スタッフがトレーニングを積みチーム体制を整えています。術後は、患者さんの社会復帰がスムーズに行えるようリハビリ支援もいたします。

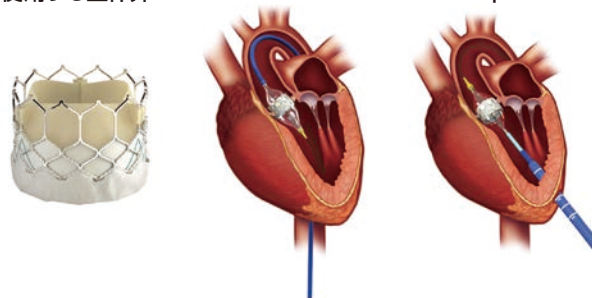
総合ハートセンターは、患者さんに安心していただける、からだにやさしい心臓病の治療を提供いたします。

島根大学医学部附属病院 総合ハートセンター

- 緊急性の高い循環器系疾患に対し、最新の医療機器等による正確な診断と医療を提供する。
- 患者の救命とスムーズな社会復帰およびQOLの向上を目指し、大学病院としての役割を果たす。



使用する生体弁
けいだいだい 経大腿アプローチ Trans-femoral (TF)
けいしんせん 経心尖アプローチ Trans-apical (TA)



図：「TAVI：経カテーテル大動脈弁留置術」に用いられる生体弁とアプローチ方法

アレルギーは予想もしないことが原因で起きることがある。そして、同僚医師との何気ない会話の中に、その謎を解く鍵が見つかることがある。皮膚科学教授 森田栄伸は、患者からの情報や、他の医師の意見などを聞くカンファレンスでの議論を大切にしている。



患者の情報を熱心に議論する皮膚科カンファレンス

3話連載

第2回

なぜ牛肉アレルギーになるのか

島根は牛肉アレルギーが多い?

森田が島根医科大学に赴任して数年が経った頃、医局で千貫祐子医師が森田に話した。

「森田先生、アルバイト先の病院で牛肉アレルギーの患者を診たんですよ。」

当時、森田は小麦アレルギーの抗原解析研究に没頭していたため、そのとき、「へえ、そう。」とつぶやいただけで、あまり気にも留めなかった。

それから数年が経った頃、森田は牛肉を食べてアナフィラキシーをおこした患者を診察した。抗体検査を行うと、牛肉特異的IgEの値が高く、牛肉アレルギーが疑われた。

不意に、千貫医師の言葉が脳裏をよぎった。

千貫医師に確認すると、島根大学病院皮膚科では2005年から数年間に20名が牛肉アレルギーと診断されていた。

「たしかに多いな。広島大学病院で診療していたときには、牛肉アレルギーの患者はほとんど診なかった。アレルギーにも地域性があるということか?」千貫医師に尋ねると、「牛肉アレルギーの患者さんは、ほとんどの人が北山の周辺に住んでいて、犬を飼っているのです。」

牛肉アレルギーの意外な原因

北山と言えば、日本紅斑熱の多発地域だ。日本紅斑熱はフタトゲチマダニに咬まれることで発症するリケッチア感染症である。

「牛肉アレルギーの原因はマダニか?」

いてもたってもいられなくなった森田は、千貫医師とともに島根県に多発する「牛肉アレルギー」の原因を突き止める研究に着手した。

牛肉アレルギー患者の共通点は、「居住地が、出雲で北山と呼ばれる弥山山（みせんさん）のふもとであること」、「ペットとしてイヌを飼っていること」であった。

仮説はこうである。イヌを散歩させているとマダニがイヌに付着する。飼い主がイヌに接触したとき、イヌのマダニが飼い主を吸血、マダニの唾液成分が体内に入り、飼い主の体内でマダニに対するIgE抗体が産出される。その後牛肉を食したときに牛肉に含まれる抗原とマダニに対するIgEと交差反応が起こり、じんましんなどのアレルギー症状が現れるに違いない。

検証として、森田らはフタトゲチマダニの唾液腺と牛肉から、抗原となる「ガラクトース- α -1, 3-ガラクトース (α -gal)」という同一の糖鎖の検出に成功した。そして、牛肉アレルギー患者の血液に α -galに反応するIgEができていることを確認し、「牛肉アレルギー」の原因は『マダニ咬傷』であると特定したのであった。

抗がん薬「セツキシマブ」のアナフィラキシーを防げ!

同じ頃、抗がん薬の一種「セツキシマブ」が大腸がんだけでなく、頭頸部のがんにも効果があることがわかり、県内病院での投与が開始された。しかし、投与時に突発的なアナフィラキシーが相次いだ。すでにアメリカの論文で、セツキシマブに α -galが含まれており、アメリカテネシー州でアナフィラキシーが多発していることが発表されていた。

島根県内の牛肉アレルギー患者が、セツキシマブアレルギーを起こすかを検証するため、森田らは牛肉アレルギー患者の血液を用いて検査を行った。予想どおり、すべての牛肉アレルギー患者が高いセツキシマブ特異的IgE値を示し、牛肉アレルギー患者は「セツキシマブ」でアナフィラキシーを起こす可能性が高いことが確認された。

2013年、森田らはその結果を日本アレルギー学会と日本皮膚科学会に発表した。その発表により、厚生労働省は「セツキシマブ」添付文書に「牛肉アレルギーの患者には投与しない」旨を記載するよう製薬会社に指示した。

現在、森田らは牛肉アレルギーの診断が正確にできる α -gal 特異的 IgE 検査の保険適用を申請している。セツキシマブ投与の前にこの検査を行なうことで、アナフィラキシーは未然に防がれる可能性が高い。

次はどんな謎を解いていくのか? 乞うご期待!



アレルギー学会で発表する森田栄伸



私たち 退院支援職員です

はなだ としこ
退院支援職員 花田 敏子



多職種
カンファレンス
の風景

患者さん・ご家族の皆さんへ
入院の時から退院のことを
考えていきましょう



私たち退院支援職員は、患者さんが安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活をしていただけるよう積極的に退院支援を行っています。

現在、島根県は高齢化が進み人口減少傾向となっています。そのため、老老介護や独居の方が増えています。入院してこられた患者さんが、当院での治療を終え、在宅または、施設転院など、退院後も安心して療養生活が送れるように支援しています。

私たちは、平成29年の4月から2病棟に1人の割合で配属され、合計11名の看護師が担当しています。退院支援に向けて日々悩みながらではありますが、長年の看護師経験を生かし取り組んでいます。退院支援は地域医療連携の調整部門の看護師、社会福祉士とチームを組んで行っているため、常に話し合って進めています。入院された患者さんが、退院について心配なこと・困りごとがありましたら各病棟にいます私たち退院支援職員にご相談ください。



「初釜で」

私のここだけの話

「私の茶道入門」

かんだ まりこ
看護部 看護部長 神田 眞理子



仕事を始めて4~5年が経った頃、看護婦（まだ看護師の名称ではない頃）の仕事もひとりで少しずつできるようになり、一寸気持ちのゆとりも持てるようになりました。丁度そのタイミングで、友人からお茶のお稽古と一緒に掛けないかと誘われ、何となく始めたのが「私の茶道入門」のきっかけです。最初の頃はお道具の名称が全く分からず、お点前どころではありませんでした。お点前のお稽古は部分的に少しずつ進んでいき、お茶名までいただくことができました。四半世紀以上楽しみながらマイペースで続けてこれたのは、よい先生と楽しい仲間恵まれ、家族の協力があつたお蔭としみじみ感じています。何年経っても奥が深く学ぶことばかりです。まだまだ「ひよっこ」。看護の道も同じだなあと感じます。伝統文化の継承も看護の伝承も人と人のつながりが一番大切なことかなと思ひながら、美味しいお菓子に舌鼓をうちお抹茶をいただきます。

留学生の



自慢

精神医学講座
イルハムディンさん



今回は**インドネシア**からいらっしゃっているイルハムディンさんに
母国について紹介していただきました。

インドネシアから来たイルハムディン（イロ）です。私の母国インドネシアは、赤道直下にあります。鮮やかな熱帯雨林に恵まれていることから、「赤道のエメラルド」と言われています。

インドネシアは 17,504 の島々（そのうち約 6,000 島は無人口島）からなり、1,340 の民族が暮らし、1,211 の方言が使用されています。

私の故郷は、5つある大きな島のひとつ、スラウェシ（セレベス）島にあるマツカサルです。たくさんの美しい観光地があり、熱帯の果物はもちろん、様々な美味しい伝統料理を堪能して、楽しめること請け合いです。

ぜひゆっくりとインドネシア、私の故郷を訪ねてください。喜んで歓迎しますよ。



イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。

当院に来院される患者さんや一般市民の方の健康づくりにすこしでもお役立ていただきたいとの思いから、健康や医療に関するミニ講座を定期的で開催しています。予約不要で途中参加・退出も自由です。どうぞお気軽にご参加ください。

実施内容は下記のとおりです。

対象 患者さんほか一般市民 **場所** 外来1階 外来待合ホール

時間 11:00～11:30



回数	月日	担当	講師	テーマ
第198回	1月9日(火)	消化器外科、肝・胆・膵外科	山本 徹	人工肛門にならない究極の直腸がん手術
第199回	1月11日(木)	心臓血管外科	城 麻衣子	成人先天性心疾患って知っていますか？
第200回	1月18日(木)	緩和ケアセンター	橋本 龍也	がん末期でも自宅で過ごすには。
第201回	1月26日(金)	膠原病内科	森山 繭子	未定
第202回	2月 1日(木)	リハビリテーション部	伊藤 郁子	健康は足下から ～いつまでも元気で歩くための足のケア～
第203回	2月 8日(木)	脳神経外科	中川 史生	『寝たきりの原因第1位「脳卒中」』
第204回	2月15日(木)	神経内科	三瀧 真悟	認知症の診断と治療
第205回	2月22日(木)	整形外科	桑田 卓	人口関節ってなに？
第206回	3月 1日(木)	総合診療科	石橋 豊	足のむくみ
第207回	3月 8日(木)	内分泌代謝内科	田中小百合	誤解してませんか？インスリンのお話
第208回	3月15日(木)	眼科	真鍋 薫	飛蚊症と眼の病気
第209回	3月22日(木)	小児科	長谷川有紀	子どもにもいる!“脚気(かっけ)”の話
第210回	3月29日(木)	精神科神経科	三浦 章子	統合失調症について

誰でも参加できる糖尿病教室

1月22日(月)

「あなたの血管大丈夫？動脈硬化ってなに？」
仲田 典子 医師(内分泌代謝内科)

「血管を見てみよう～血管の検査について～」
矢田 恵梨香 臨床検査技師

3月9日(金)

「個性的な薬者(ヤクシャ)揃い!?～治療を支える飲み薬～」
曾田 重人 薬剤師(糖尿病療養指導士)

「もっと大切に。あなたの足に目を向けよう。」
佐仲 みどり 看護師(糖尿病療養指導士)

病院ボランティアコンサート開催予定

1月19日(金)19時から

ハーモニカボランティア 大坂
開催場所：附属病院1階外来待合ホール



島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定 (出雲ケーブルビジョン)

平成30年1月放送

産科婦人科 助教 中村 康平
放送内容：
遺伝性乳がん卵巣がん症候群について

世界基準の検査技術・品質!信頼できる検査結果も提供します。
～検査部・輸血部・病理部がISO15189の認定も取得!

ニュース
NEWS & トピックス
TOPICS

ISO 15189 は臨床検査室に特化した国際規格です。認定取得により当院の検査部・輸血部・病理部は「マネジメントシステムを運営し、技術的に適格であり、技術的に妥当な結果を出す能力があることが認められた」検査室となりました。検査結果は信頼性の高い国際的にも通用するものであることの証となります。

ISO15189 認定検査室として、これからも信頼される良質な検査情報を提供し、日常診療における信頼性や安全性の高い医療の提供はもとより、国際治験や医療ツーリズムなど医療のグローバル化にも貢献できるものと考えます。



島大病院 書籍のご紹介

好評
発売中!

あなたの健康のために —島根大学医学部附属病院の最新治療



本誌インタビュー登場の
先端がん治療センターで
行っている「プレジジョン
メディシン」の解説など、
当院の最新治療のすべてを
詳しく紹介!

編著：島根大学医学部附属病院 発行：バリューメディカル 発売：南々社
A4判/並製本/120項/オールカラー 定価：本体1,480円+税

県内主要書店、島根大学生協、院内ローソンでお取り扱いしています。

編集後記

昨年の紅葉のきれいな季節に、三江線に乗車しました。三江線は島根県江津駅と広島県三次駅をつなぐ路線で、江の川の流れて沿って、沿線には美しい自然や見どころが溢れています。駅の愛称を神楽の題目にしたり、「天空の駅」をライトアップするなど、地域住民の手により活性化が図られてきましたが、今年4月に廃線になります。プロジェクト M にご登場の森田先生は、中学生のころ通学に三江線を利用されていたとのこと。「なくなるのはとても寂しい」と話されていました。三江線はなくなっても地域活性化の取り組みは続いていくことでしょう。次号は4月発行予定です。



【編集者より】 常清滝

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます↑)

医学部総務課 企画調査係 広報担当
☎ 0853-20-2019
✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp
🌐 <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

